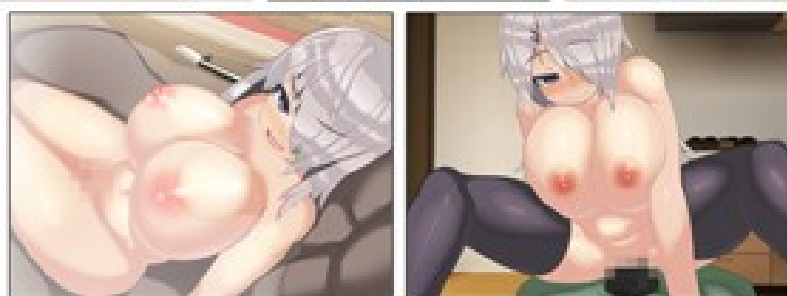
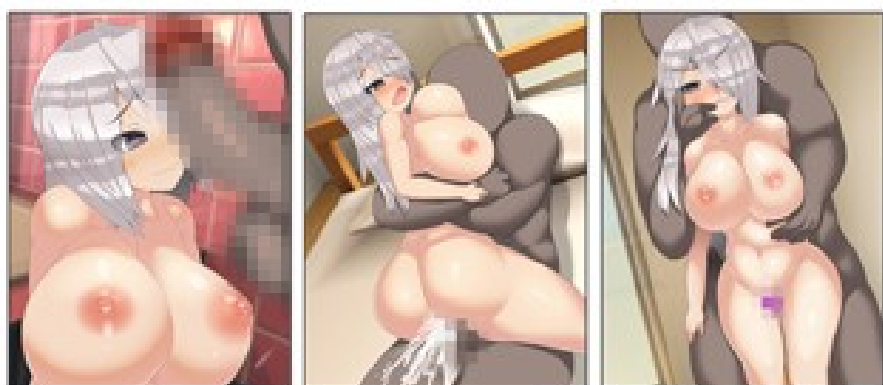


高校生男子が突然女の子になったらこうなる

・中身が身体と同じになるまでのお話2・



高校が実家から遠いので通う為に1人暮らしをはじめて
数カ月が経ったある日

「はぁ・・・」

フラれた・・・

しかもかなりキツめにフラれた・・・

俺が女でもあんなきつい事言わないよ、うう

『もっと男らしい人が良い』とか
そんなんもって生まれた性格だよ
俺だってもっと男らしくなりたかったよ
高身長でイケメンにもなりたかったよ

ああもうやだこんな女々しい自分も嫌だ
それならいつそ女の子になりたい・・・
ああそれはそれで・・・楽しそうだな・・・
・・・zzz

・・・んっ、なんか髪の毛邪魔だな
そろそろ切りにいかなきゃ
あれ？やけに長い気がする

鏡・・・ああ洗面所行くのだからいわ
あっ、カメラ使えばいいじゃん
携帯どこだ

あつた

はあ、目がしばしばするなあ・・・



朝起きたら女の子になっていた



「マジか」

.....

すぐ順応した

この身体の画像つけてツイートしたらめっちゃコメントくれる
みんなチャホヤしてくれてめっちゃ楽しい、ぐふふ

ふひひ

ああ遊んでたらこんな時間か
つつてもこんな姿じゃ学校にも行けないし
ん？なんだこれ



関連に何かエロいの出て来たぞ
オナニー動画で小遣い稼ぎ？



。。。暇だしやってみようかな

●REC

「カメラでオナニー撮るの最初に考えた奴はやばい変態だな
・・・めっちゃドキドキする」
しかも女になって初オナニーがこれかよ、やべえ

ドキ
ドキ





「ごうかな・・・」

(うわぁ。。。すげえもちいい。。。
感じ方が全然違う。。。)



「。。。イセエツ。。。ッ」



「はあ……。はあ……。手がべっちょべっちょになっちゃった……。
ティッシュどうぞ。。。」



あつ、録画できてなかったわ
……。着替えたらかいしよつと



さてさてどんなもんかね・・・おお！
結構売れてるじゃん！
良いバイト見つけたわ

楽しくなってきたぞ！

数日が経過、動画は結構な小遣いになった
そのお金でオナニーグッズを購入しては
それでまた新しい動画を作っていた

ドキドキ

♪

「今日はこのサイズに挑戦してみようかな…」





「くあ・・・大きい・・・
でもいいけそう・・・」



「ふう……ふう……挿った」







『乗馬マシン+デイルド』

海外のポルノ動画サイトで見つけて
めっちゃ興奮したので勢いで購入した
今考えると我ながらアホな事したなあ

ドキドキ

「あの動画すげえ気持ちよさそうだったなあ
そんな良いのかな？」



「んっ。。。ふう、入った。。。」

ズン...

「とりあえず弱でやるか」



「んおっ、これは、結構良いかも……」

「ヤバイ、イクイク」



「っ……」

ん♡

ブルン♡

「はあ……はあ……
見た目はちよつと……アレだけど……
結構実用性あるじゃん……」

ピッ

「ん？」



「ふあ！？強はダメだってえ！」

「あっあっ！だめだめ！こんなのだめえ！！」





(激しすぎて死ぬかと思った。。。)

(びっくりしたあ、ううヒリヒリする)



この動画も結構人気になった
女の子になってから毎日が楽しい！
でも最近『会いたい』とか
『マジで犯してやりたい』とか
物騒な事言う輩が増えてきたな・・・

「まあ本気で会いに来るような奴はいないだろ、たぶん
そもそも特定するのなんて不可能だよな
住所なんて男の時の名義だし、ハハハ」



一方その頃、隣の部屋

「ええ。。。」

驚かそうとこっそりアイツの家に入ったら
初めて見る女の子が居て
びっくりして隠れて見てたけど。。。ええ



言ってる事がアイツみたいだわあの人
というかアイツそのものだわ
やべえ混乱してきた
一人っ子って言ってたから妹じゃねえだろうし

つうかさつき男の時って
。。。んな事あんのか？
うーん、と、とりあえず、確認してみるか？
外に居るていで電話を。。。



ん？電話？しかも非通知？

「はいもしもし」

「もしかして○○○○（本名）？これから会わない？」

「・・・」

ああああああああ
俺の人生終わったあああああ！
何でバレてんの！？

これ絶対エロ動画見てるストーカーじゃん！
今の非力な俺じゃ一瞬で押し倒されて
服剥がれて・・・あわわわ



（切られちゃった。。。非通知でかけたのがまずかったかでもあの取り乱しようはやっぱそうなのか？。。。とりあえず俺ってバレたら怒られる逃げよ）

もうだめだ、おしまいだ俺はどうすりゃいいんだ。。。とりあえず誰かに助けを求めなくては



「・・・という事があってな、うう」

（こんなすぐ呼び出されるとは思わなかったが
本当に予想があたるとは
それはそうと乳やべえな）

ズーン

「ええと・・・全身そういう手術したのか？」

「**高校生の俺がそんな金あると思う？朝起きたらなってた**」

「まあそういうんじゃないよな・・・見た目に関しては何かから何まで違うし」



「最初はエロ動画アップして『女の子楽しい!』とか言って過ごしてたんだよでもな? 昨日女の子って大変って目にあってたな
とにかくすごい怖い目にあっただよ、助けてくれ頼む」
「なるほどな、でも自業自得だな?」
「はい・・・」
「もうそういう動画出さないな?」
「はい・・・」



「あつ、でも鏡見てオナニーはしていいよね?

女になってから分かったけど快感がすごくてもうね

「それは勝手にしろ」

「はい・・・」

「よし分かった、俺がボディガードしてやるよ」

「……お？おおっ！断られるかと思った！いいのか！」



（元はと言えば俺の電話のせいだしな）

「親友だからな、へへっ」

「……」

「どした？」

「いやさ、俺がこんななってるのに
あんま驚かないなと思って」
「。。。」

?

「もっと驚くもんじゃないやね？割と反応薄いし
初めて見たにしては。。。」

「えっ。。。あー。。。まあ」



「親友だぞ、そんな事で動揺するかよ」
「そ、そっか、そうだよなあ！えへへ」



／＼アアアアア

（アホでよかった）



「・・・何で風呂までついてきてんの？」

「心配だしさあ」

「嘘つけ！おっぱい触りたいだけだる！」

「うん」

「中身が俺だって言ってるのに・・・」

「いやいや、想像してみろって」

「目の前にエロい身体の女が居てだぞ、良い乳があつてだ
お前は理性を抑えられるか？」

「。。。無理だな」

「だろ？それだよ」

「なるほど」

「。。。俺が言うのもなんだがちよろすぎない？」

「俺はエロについては寛大だぞ、お前の苦悩はよくわかる」

「お、おう」



「でも人に触られんの初めてだし手加減はしろよ？
おもいつきりとか絶対だめ」

「おとやめてくれって言ったおちちゃんどやめてくれな〜」

「わかってるわかってる」



「はあ・・・最高・・・」

モッ

モッ

（コイツやらしい触り方するなあ・・・）
（でも胸ってこうやって触ればいいのか、んくっ）
「・・・も、もういいだる？」

「あとちよっとだけ」



数十分後

(いつまで揉んでんだよロイツ)



(こっちは胸だけですげえ感じてんのに……)
(……あっ、やばい、これ以上は)



「も……もうおわり！おわりだから！」
「いったのバレたか？……」

「ええ～でももうちょっとだけ」

は

は……♡

んん

は♡

モジ
モシリ

「約束しただる！だめったらだめ！」

「わ、わかったって、ごめんよ」



「ところでさー、本番とかしてみたくない？」

「ばっ、ばかやろうー！それはダメだ！」

「でも絶対気持ち良いぞ？やった事ないけど」

「。。。だ、だめっ、だめだからな！」



「ダメかあ、じゃあパイズリは？」

「パイズリはあ。。。」

「エロくない？」



「何で当然のようにパイズリさせられる流れなんだよ」

「乳を揉んでイク所まで見せられて

我慢して寝るとかお前なら耐えられるか？」

(いったのバレてる・・・)

いふふふ...

「お前だって逆の立場なら我慢できないって

そんなエロい身体してるし責任あるぞ」

「それは・・・一理あるかも・・・」

「そうだよ」



(気のせいか良いように言いくるめられている気がするが
ボディガードしてくれてるし
ここは自分が我慢するか)

ズシッ
ズシッ

く

(つうかコイツのデケエな!？くっそお・・・)



（うわーすげえブサイクな顔してんな
やっぱ気持ちいいのか？
してもらおう側がよかったぜ）



（・・・あれ？なんか俺もドキドキしてきた？
な、なんでだろ？）



「・・・顔にかかったんだけど」
「す、すまん」



「ああもう最悪・・・ひでえ臭い・・・
つうかいつまで出してんだよ！出しすぎだぞ！」

「次はフェラしてほしいなあ」

「はあ！？また勝手な事言いやがって！
それに今俺は怒ってんだぞ
ちよつとは反省をだな・・・」

※説得



「・・・まあ・・・それも・・・そうかも」

「そうだよ」



（俺がチンポ見てドキドキするなんて
まあ今の姿なら別に变じやないけど、それでも・・・
やっぱ身体だけじゃなくて脳とか
心も少し変わってるのかなあ・・・）

ズリズリ

「……つつかぺたぺたすんなよっ!」

「AV女優の頬にちんぽ擦り付けるシーンあるだろ
あれ好きなんだよね」

「俺も好きだけどされる方は……」

（……うーん）



グッポッ

んっ

んっ

グッポッ

（想像してたよりそこまで……というかさつきからこの気分はなんだ？
よくわからないが、嫌じゃない、気がする……）

「……」

「もうお前完全に女だな」
んぐっ！



げほげほ

「いきなり変な事言うんじゃないやねえよ！」

「えっ、改めてちよっとそう思っただけで・・・」

ゲホ

ゲホッ

「それでも言うなって！びっくりしただろ！」

「そんな取り乱すとは思わなかった、すまん・・・」



ふっ

ふっ

(何言っただまつたく。。。でも事実かもな
女の方が性に合ってる)

(そういえば元々は嫌なことがあって
いっそ女になりたいって。。。)

「。。。うっ、もう出そう」



「ご、ごめん！・・・大丈夫か？」



「やるか？」

「んっ、なにを？」

「本番」

「いいの!？」

「ちよっとどんな感じかなーって

興味があるっつうか・・・」

っっ

「なんだお前も興味あったんじゃんかー」

「ちよ、ちよっとだぞー!」



「興奮しすぎだぞ……」
（うわぁ……。意識したらすぐ濡れてきた
俺の方が我慢できてねえみたいじゃん！）

ドキ

っっ
ハァ……

ドキ

「じゃあ挿れるよ」

「お、おう……。ゆっくりだからなっ」









「ごめん、このままもう一回・・・」
「ん、ごめっ、いつてる最中に、やめっ・・・っ」







「お、おい、落ち着けって

「はあ、はあ・・・お前がエロ過ぎるから悪いんだよ・・・」

「激しすぎるって、もっと・・・もっとゆっくり」



「むぐっ!?!」

グ
チュッ

グ
イッ

ン

グ
チュッ
ル
ル
ル

「んう……んうう……
……ぷはっ、こらっ!やめろっ!」



「ごめん、もう女としてしか見れなくて・・・
嫌だったか？」

「・・・」

（これ以上されたら戻れなくなる・・・）

ドキドキ

は・・・

は・・・

ドキ

〜

〜

「ほんとごめん・・・」

（・・・いや、今更か）





「んっ」
「!?!」



「……余計な事何も言うなよ

お前からしたんだからな

そういう気分になせたお前が悪いんだぞ」



「.....」



「むっむっのかよっ」

「ほんとに生でいいの？」

「最後外に出せばいいよ。。。。つかそれより
今更だけどさあ本当に俺で良かったのか？」

「？」

「初めてが俺でさあゝ」

んーっ

んーっ

「一応、身体は女だけど
ちゃんとした女じゃねえし。。。」

「。。。」

「そろっ！こっちは真面目に言ってるのに乳吸ってんじゃねえ！」

「だ、だって我慢できないって……」

「だってじゃない！」

「さっきも言ったけどもう女としてしか見れないよ」

「ぐっ、ぞ、そうか……」

（考えてる俺の方が恥ずかしくなってきたぞ）



「うあっ！急に動くなよ」

「ここが好きなんですよ？」

「じ、しらねえよ」

（俺が好きな所バシてる・・・

ただでさえいつもよりデカくなってるのに

そとばっかゴリゴリ責めやがって）

んっ♡

あん♡♡♡

♡♡♡♡♡

「んっ・・・吸いながら動くなあ・・・」
（こいつ・・・俺の気も知らないで）

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ



「……中に臨して」

「えっ」

「中に出してほしいって言ってんだよ！」



「はあ……すきい……」



「……っ！」

えーと……

……。……。……。……。。

あれだから、気の迷いだから
っつか今のは違うから」

「はい」

か

くくく
プルプル

くく
くく

「人に言ったらあれするからな」
「はい言わないですはい」





「ふう、気持ち良かったぞ
回数こなして立派な肉棒に育ったな」

んっ♡

んっ♡

おっ♡

「それは褒めてる？」

「褒めてる褒めてる」

（ほんとかなあ・・・）

（まあこれはこれで良い関係かも）

「ん？お前の携帯鳴ってるぞ」



「ほっといていいのに」

「だって気になるし・・・あっ、すまん」

っ

「何か変なとこ押して履歴出ちゃった
ん？何だこれ、お前いつ俺に電話したの？
あれこの目・・・この時間・・・」

「あっ」



「。。。」

「それはちがくてな？ いやその勘違いしないでくれ！
あの日はお前の家に遊びにいったんだよ」

「きてないだろ」

「あー・・・誤解しないで欲しいんだけど
黙って家に入って・・・」

「黙って家に入ったとな」

「いやそうだけど、そういうことじゃなくて」



「決して悪気はなかったんだ！
それでその時に色々見て・・・ええと・・・」

ゴゴゴ...

ギョ...

「全部見ていたんだな？」

「あの・・・はい見てました」

「あの時の電話かけたんだな？」

「はい、あっ、でも

決していたずらではなく
本当に心配してました
それは本当です、はい」

「・・・」

「もう言い残す事はないか？」

「あ、あの・・・お手柔らかに」

このあとめちやくちやボコボコにした

おしまい











● REC

















































































































































